

JR東日本のIR活動

東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 経営企画部 課長 石丸 幹人

第21回「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、弊社は運輸部門の優良企業に選定されました。これは4年連続8回目の選定となりますが、日々のIR活動に対し評価をいただいたものであり、大変光栄だと思っております。株式上場以来、証券アナリストの皆さまとの対話により、弊社のIR活動は前進してきました。この間の皆さまのご理解とご支援に感謝申し上げます。

弊社のIR活動では、鉄道事業の状況や各開発プロジェクトについて正確にお伝えするとともに、中長期的な経営の方向性やキャッシュの使途等、投資家・アナリストの関心事項と懸念事項について理解を深めていただくことに力点を置いています。ここでは具体的に、「投資家と経営陣の議論」、「投資家の関心事項への対応」、「社内へのフィードバック」の3点からご紹介します。

「投資家と経営陣の議論」としては、期末決算及び第2四半期決算発表後の投資家・アナリスト向け説明会の開催、セルサイド・バイサイドのアナリストを対象としたスモールミーティングの実施、米国・欧州・アジアへの海外IRを実施すること等により、国内外の投資家・アナリストと経営陣との議論を深めています。

「投資家の関心事項への対応」としては、テーマ別ミーティングの開催、ファクトシートやプレゼンテーション資料等の投資家向け資料の充実に取り組んでいます。テーマ別ミーティングは2014年度、羽田空港アクセス線構想をテーマに開催し、約60名の皆さまにご参加いただきました。

また、ファクトシートをはじめとする投資家向け資料については、弊社の事業概要や現状と課題、今後の戦略についてわかりやすくご説明できるよう留意して作成しています。

「社内へのフィードバック」としては、投資家・アナリストの関心事項・ご意見について、常務会（役付取締役等で構成）で定期的に報告を行うとともに、関係部門にもフィードバックしています。また、IR情報誌「IRだより」を毎月発行し、イントラネット上で弊社内のみならず、グループ各社に対しても情報発信を図っています。このようなフィードバックを通じIR部門と関係部門とのコミュニケーションを深めることで、よりの確かな情報開示ができるよう取り組むとともに、投資家・アナリストのご意見を経営に活かしています。

今回の評価結果からは、インバウンド関係をはじめとした生活サービス事業の開示レベルの向上、株主還元のある方、技術革新等を踏まえた設備投資の水準に関する議論の深度化等、ディスクロージャーにあたっての課題についても認識しました。これらの課題については、今後議論を深め、改善を進めていきたいと考えています。

折しも本年、「コーポレートガバナンス・コード」が策定されました。同コードでは企業と機関投資家・株主との「建設的な対話」の重要性が謳われていますが、弊社も持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、アナリスト・投資家の皆さまと長期的な視野に立ち、建設的な議論を進めてまいりたいと考えております。